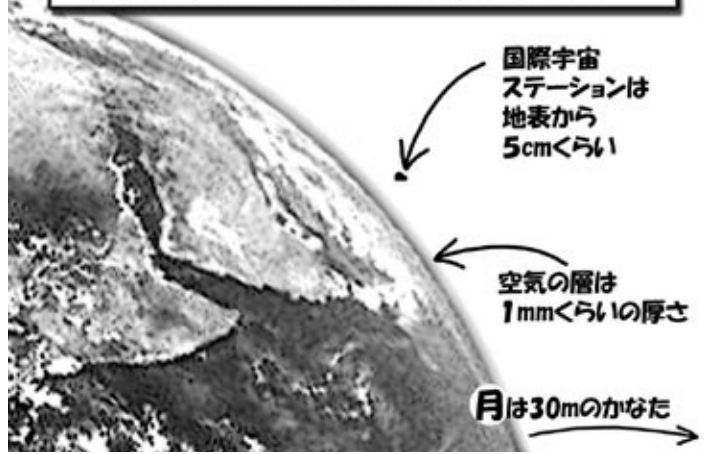


## 地球の大きさを直径1mに縮めると・・・



国際宇宙  
ステーションは  
地表から  
5cmくらい

空気の層は  
1mmくらいの厚さ

月は30mのかなた

では、この世界の大きさはどのくらいなのでしょう？「無限」ではないのなら、カップ麺1年分や10キロのお肉と同じように、自分にとっての世界の大きさをちゃんと知りたい、そのためのモノサシが欲しいと感じたのです。

### 楽間の秋、 ノーベル賞の秋

12月10日は、ノーベル賞の授賞式。今年のノーベル平和賞は、ア

メリカの元副大統領アル・ゴア氏と、国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」に贈られることになりました。授賞理由は、両者が「人為的に起こる地球温暖化の認知を高めた」こと。地球温暖化の問題に熱心に取り組んできたアル・ゴア氏が出演した映画「不都合な真実」は、今年1月には日本でも公開され、第79回アカデミー賞「最優秀長編ドキュメンタリー賞」を受賞するなど多くの話題を振りまきました。

「不都合な真実」と比べれば、IPCCについてはご存じない方も多いかもしれません。地球温暖化問題の科学的研究において最も権威ある機関とされるIPCCでは、130の国・地域を超える4千人以上の科学者が、報告書の作成に携わっています。第4次報告書でIPCCは、地球温暖化の原因は人間活動にあることが濃厚であるとの踏み込んだ結論を発表しました。つまり、一人ひとりの人間にとって広大なこの世界は、実は60億の人間の活動によって影響を受ける小さな世界なのだということ、科学のモノサシで測って示したのです。

### 未来を選ぶための 新しいモノサシ

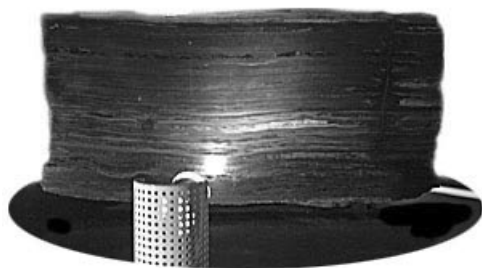
科学のモノサシは、心のモノサシのような感覚や感動を直接与えてくれるわけではありません。でも、抜けるような青空が薄くはかない世界であることを知れば、その向こうに宇宙を感じる事ができます。果てしない海が小さな世界であることを知れば、川の環境に心を配るようになりま。心のモノサシと科学のモノサシが合わされば、さらに豊かな感動と、人類が小さな世界の中で生き抜いていくために必要な、新しいモノサシが生まれます。

IPCCの第4次報告書作成には、大勢の日本人科学者も参加しています。科学によって平和に貢献した彼らの心にはきつと、新しいモノサシが育っているのではないのでしょうか。日本の豊かな自然と最先端の科学で育まれた、惑星・地球をはかる未来のモノサシです。



### 自然豊かな 蒲郡だからこそ

この秋、もし海や山に遊びに出たなら、ぜひ生命の海科学館にもお立ち寄り下さい。隕石や化石は、身のまわりの自然やこの地球が決して永遠でも普遍でもないことを教えてくれる、億年のかなたから来たメッセンジャー。蒲郡で自然を楽しみ未来を考えるための新しいモノサシの種が、どこかに眠っていますよ、きつと。



生物が地球の環境を大変動させた証拠  
縞状鉄鉱層(25億年前)

### 生命の海科学館

学芸員 山中敦子